

## 「全国学力学習状況調査」特集

平成29年4月18日(火)、文部科学省による「全国学力・学習状況調査」が、実施されました。6年生を対象として、「教科(国語・算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」がその内容です。本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の学年においても、CRT学力検査や生活アンケートを実施し、課題を分析し、少人数指導・朝学習や放課後学習の時間・SAT・フォローアップ事業・家庭学習取り組み週間・都留市「家庭学習の手引き」や山梨県「学びの甲斐善八か条」などの取組によって基礎学力の向上を目指しています。

### 1 教科に関する調査結果の概要

#### ① 学力調査結果と分析

##### 国語A(主として知識)

- ・領域別にみるとすべての分野において全国平均を上回る結果となった。
- ・古文における言葉の響きやリズムを楽しみながら読む問題では、正答率が低く、無解答率も高かった。
- ・ひらがなで表記されたものをローマ字で書く問題については、学校で継続して取り組んでいる成果が表れ、正答率が高かった。



##### 国語B(主として活用)

- ・すべての分野において、全国・県の平均正答率を下回った。平均正答率の低い問題は、「目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉づかいで自分の考えを話す」「目的や意図に応じて、文章全体の構成を考える」などである。今後、継続したノート指導を思考ツールなど使いながら習慣化する必要がある。

##### 算数A(主として知識)

- ・領域別に見ると「量と測定」について全国と県の平均を下回ったが、他の3領域はいずれも全国・県の平均を上回っている。
- ・重さや長さにおいて、比較以外に「〇〇のいくつつ分」という方法を生活に生活において経験させる必要がある。秤や定規がないときにいかに測定するかといった状況を体験させる必要がある。

##### 算数B(主として活用)

- ・領域別にみると「量と測定」が、観点別にみると「数学的な考え方」「数量や図形についての知識・理解」において、全国平均をわずかに下回った。
- ・既習事項を用いて、課題を解決していく際の思考をノートで図・表や文を用いて説明する活動を多く取り入れていくことが必要である。

#### ② 学校における学習状況に関する調査結果と分析

授業の中で自分の考えを話したり、書いたりすることや、話し合い活動に課題が見られる。児童が学習に対する目的意識をもち、主体的に自分の考えを説明し合ったり、文章に書いたりする授業を目指していきたい。特に今年度は、思考力・判断力を身につけさせるために思考ツールを活用したノート指導について学校全体で取り組んでいるが、さらなる充実を図る。

## 2 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

#### ① 家庭学習習慣に関する調査結果と分析

- ・家庭学習の時間が1時間以上、2時間より少ないと応えた児童の割合が一番多く、その割合は全国や県平均より高い。30分より少ない児童も全国・県平均より5ポイント高い。全校的には家庭学習の時間が短い児童が多いので、今後も「家庭学習の手引き」や「学びの甲斐善八か条」「家庭学習週間」を活用し、全校で家庭学習の時間のめやすや具体的な取り組み方を示しながら、保護者とより深い連携を図っていく。
- ・与えられた課題については、きちんとやり遂げようとするが、自分で計画を立てたり、予習や復習をしたりする習慣はあまり身に付いていない。

#### ② 生活習慣等に関する調査結果と分析

- ・朝食を毎日食べている児童は、97%を超えており、全国・県よりも大幅に高い。
- ・人が困っているときは、進んで助ける児童は50%を超えており、助けないと答えた児童はいなかった。
- ・一日あたり3時間以上テレビを見たり、テレビゲーム等をする割合は、全国平均よりも高い。3時間以上携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする割合が全国や県に比べると高い。4時間以上という児童も全国・県平均より高い。
- ・ふだん、何時ごろに寝ますかの問いに対しては、午後10時から午後11時と答えた児童が最も多く、全国や県より1時間ほど遅くなっている。

### 正答率が高い傾向が見られる子ども

「ゲームやスマホの使い方や家の人との約束を守っている子ども」  
「読書が好きで子ども」「宿題をする子ども」  
「朝食を毎日食べる子ども」「家の人に学校の出来事を話している子ども」  
全国学力・学習状況調査の結果分析で、文部科学省はこのように成績と生活の相関を示しています。

## 3 調査結果から明らかになった課題解決のための重点的な取組み

#### ① 教科に関する取組み

※ ◎全校での取組 ○学年での取組み

##### ◎ 学力向上のための特設時間の実施

- ・基礎学力定着のための朝の活動を全校一斉に実施(月曜…読書 火曜…漢字 水曜…計算 木曜…国語 金曜…読書)
- ・放課後学習の実施…2～6年生の希望者を対象。担任と市担教員等で学習に遅れの見られる児童を中心に個別指導に当たる。
- ・毎週水曜日の時程を組み替え、放課後にすべての学級で25分間の学習時間を設け、学力定着の時間とする。管理職を含め教務教員も入り、全校体制で指導にあたる。
- ◎ 禾一スタンダードによる授業展開と思考力・判断力を育てるノート指導の充実。(校内研究)
- ◎ 児童が主体的に自分の考えを説明し合ったり、文章に書いたりする授業を目指す。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組み

##### ◎ 宿題のスタンダード化

- ・都留市発行の「家庭学習の手引き」の活用
- ・山梨県発行のリーフレット「家庭学習のすすめ～学びの甲斐善八か条」の活用
- ◎ CRT学力検査や全国学力・学習状況調査、山梨県学力把握調査の課題と課題解決のための取組等の保護者への周知
- ・学校便り、学年だより、学級便り、学級懇談会、個別懇談会等の積極的な活用
- 自主学習ノートや自由勉強の活用



※なお、本日都留市教育委員会より本市全体の結果についての冊子も配布いたしました。そちらもぜひご覧いただき今後の家庭教育の参考にしてください。